

## カネテツデリカフーズが考える毛髪混入防止対策

食品への異物混入のお申し出で最も多いのが毛髪です。お客さまからお申し出がある度に対策を立てているものの、一向に減らない、しばらく止まっていたと思ったら続けて同じお店で出てしまうというパターンも珍しくありません。止まらない毛髪苦情に頭を抱えている食品メーカーも少なくないのではないのでしょうか。毛髪混入防止対策は食品メーカーにとって永遠のテーマとも言えます。

毛髪混入の原因は、抜け毛を作業服に付着させて作業場に持ち込み、製品に落下する経路が最も多いと考えられます。この原因に対処するため、ローラーがけの徹底を対策の柱にすることが必要です。

すべての作業者がローラーがけを正しく行うためには、どのようなやり方が正しいかを知らなければなりません。カネテツでは共通の認識を持つために動画マニュアルを作りました。

また正しいローラーがけを1日ですべて覚えることは難しいと判断し、15部位に分けました。毎週1部位ずつ覚えることで、約3ヶ月で全ての部位を正しくかけられるスキルを習得できるように教育プログラムを組みました。3ヶ月後には毛髪混入防止対策として大きな効果を実感できるはずです。

### <どこから毛髪が混入するのか>

製品に毛髪が混入するには下図のような経路が想定できます。

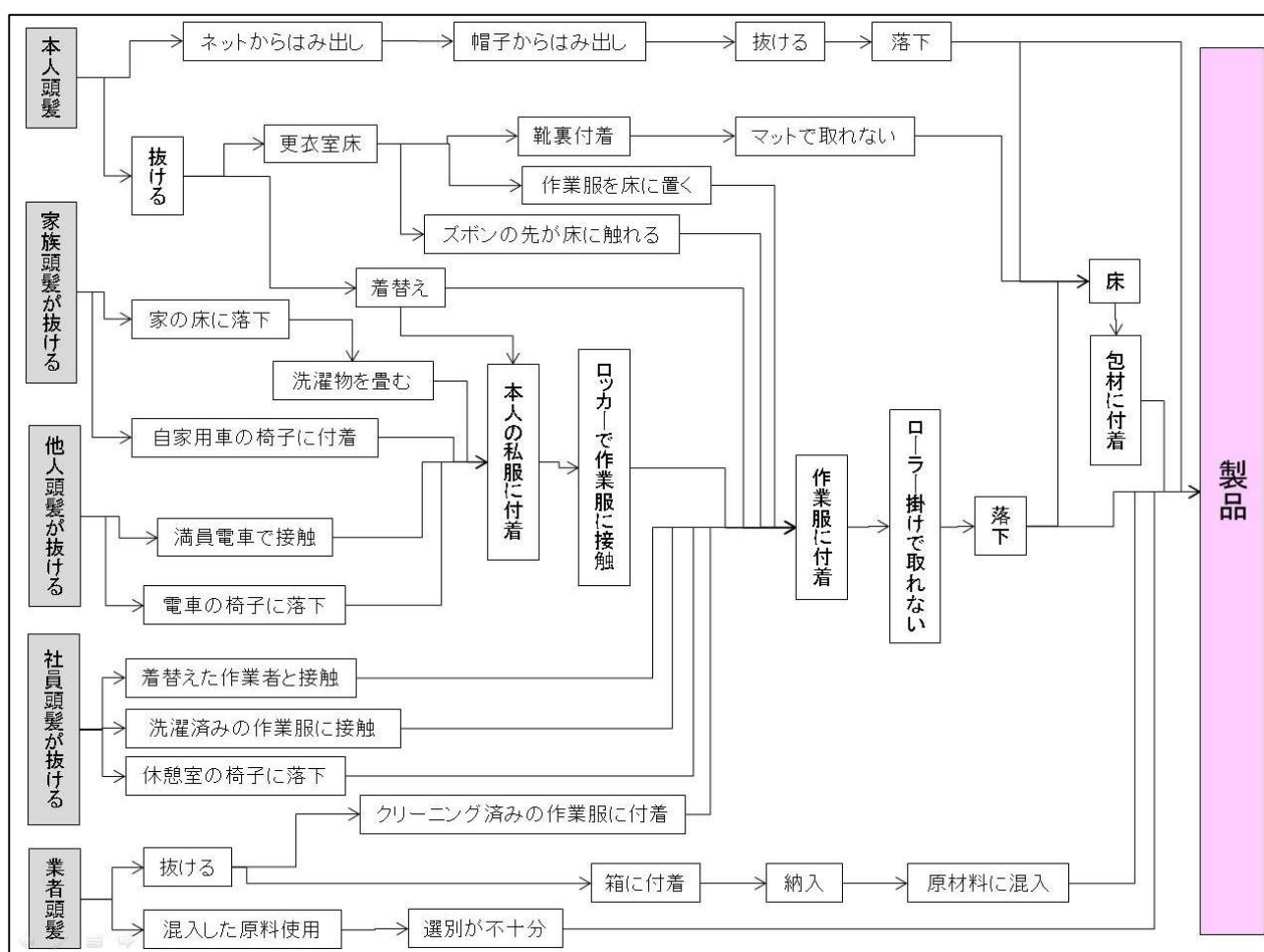


図1 毛髪が製品に混入する経路の一例

今の時代は作業服を正しく着用するよう指導が徹底しているため、帽子などから毛髪がはみ出している作業者はほとんどないはずですが、工場内で混入する毛髪は、「抜け毛を作業服に付着させて工場に持ち込んでいる」ことが大きな原因です。

### <付けない環境作り と 取り除く工程>

抜け毛を工場内に持ち込まないために、食品メーカーでは様々な対策を取っています。その対策は「①毛髪を付着させない環境作り」と「②毛髪を取り除く工程」の2種類に分類できます。

HACCP 的に腐敗性微生物対策を考えると、PRP(原料の受け入れ、冷蔵保管など)も管理しますが、危害を許容レベルにまで低減させる CCP(加熱など)の工程は厳格に管理しなければなりません。CLを外れた製品を排除せずそのまま出荷してしまうと、賞味期限まで持たない製品が大量に市場に出回ることになります。

毛髪混入防止対策も同じで、重点的に管理すべき「②毛髪を取り除く工程」が穴だらけだと抜け毛を作業服に付着させたまま工場に入っていくことになり、結果として製品への毛髪混入が減りません。①の毛髪を付着させない環境作りも大切ですが、「毛髪を取り除く工程」を厳格に管理することが毛髪混入防止対策の柱となります。

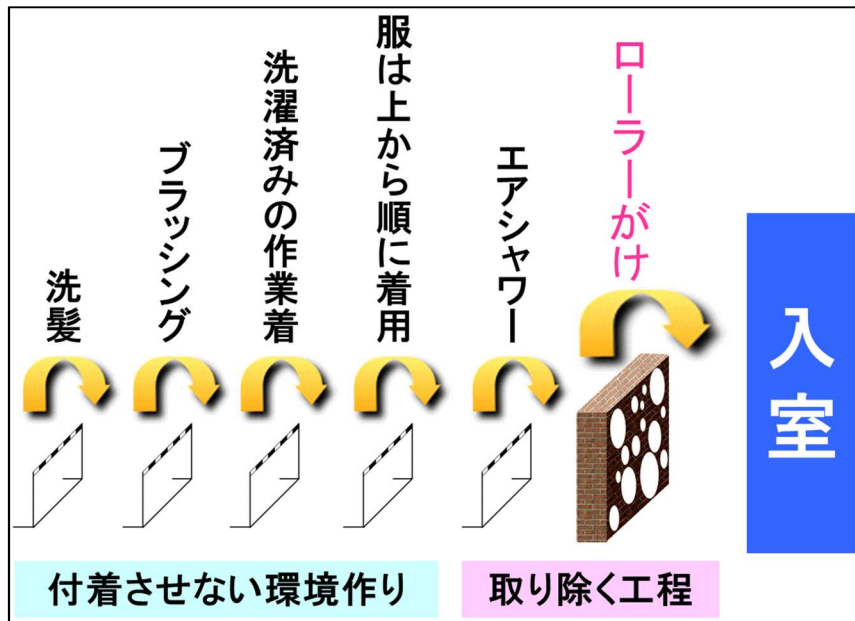


図2 毛髪混入防止策の分類

現状把握のため、工場入口、工程入口でのローラーがけの様子をスマホなどで録画することをお勧めします。モニターを通して見ることで、粘着ローラーのやり方やレベルにバラツキがあることに気づくはずですが。

### <ローラーがけもスキルの一つ>

工場内の製造作業を教えるときは一緒について、やって見せて、注意点を教えて、やらせてみておかしな所は修正させ・・・と言うように細かく教えて検証までやっているはずなのに、ローラーがけについてはその人任せで検証もなく放置になっている工場は多いと思います。ローラーがけも「習得すべきスキルの一つ」と位置づける必要があります。

### <ローラーがけ教育>

カネテツでは全身を15部位に分け動画マニュアルを作成しました。毎週1部位ずつ教えていくと約3ヶ月後には全身に正しくローラーがけができるようになります。

朝礼で責任者が特定部位のローラーのかけ方を実演します。その週はその部位の強化週間とし、1週間同じ部位を毎日実演します。朝礼ではランダムに誰かを当ててその場でやってみせてもらうことも効果的です。

また教育期間中に工場入口や工程入口にて、スマホなどで作業員のローラーがけの様子を動画撮影し、教育済みの部位の教育効果の検証をすることも忘れてはなりません。多くの作業員に正しいかけ方が伝わっていない部位があれば、翌週はその部位に戻って再教育し強化週間にする、一部の作業員が正しくローラーがけできていないのであれば個別に指導する、などの処置が必要になってきます。

こうすることで3ヶ月後には毛髪混入事案が激減していることを実感できるはずです。